



11月の採用薬品

ブスコパン注 20mg

鎮痙剤

サノフィ



【効】1. 下記疾患における痙攣並びに運動機能亢進：
胃・十二指腸潰瘍、食道痙攣、幽門痙攣、胃炎、腸炎、腸疝痛、痙攣性便秘、機能性下痢、胆のう・胆管炎、胆石症、胆道ジスキネジー、胃・胆のう切除後の後遺症、尿路結石症、膀胱炎、器具挿入による尿道・膀胱痙攣、月経困難症、分娩時の子宮下部痙攣

2. 消化管のX線及び内視鏡検査の前処置

【用】通常成人には、1回1/2～1管（ブチルスコポラミン臭化物として10～20mg）を静脈内又は皮下、筋肉内に注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【副】添付文書参照

11月の採用薬品（院外専用薬品）

オフエブカプセル 100mg

抗線維化剤

日本ベーリンガーインゲルハイム



【効】1. 特発性肺線維症
2. 全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
3. 進行性線維化を伴う間質性肺疾患

【用】通常、成人にはニンテダニブとして1回150mgを1日2回、朝夕食後に経口投与する。なお、患者の状態によりニンテダニブとして1回100mgの1日2回投与へ減量する。

【副】添付文書参照

ジャディアンス錠 10mg

2型糖尿病・慢性心不全治療剤

日本ベーリンガーインゲルハイム



【効】【用】<2型糖尿病>：通常、成人にはエンパグリフロジンとして10mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら25mg 1日1回に増量することができる。

<慢性心不全>：通常、成人にはエンパグリフロジンとして10mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。

【副】添付文書参照



11月の採用薬品（特定個人薬品）

ブロムペリドール錠 3mg 「アメル」

精神神経安定剤

共和薬品工業



【効】統合失調症

【用】ブロムペリドールとして、通常成人1日3～18mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日36mgまで増量することができる。

【副】添付文書参照

オルケディア錠 1mg

カルシウム受容体作動薬

協和キリン



【効】【用】<維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症>：

通常、成人には、エボカルセトとして1回1mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。患者の状態に応じて開始用量として1日1回2mgを経口投与することができる。以後は、患者の副甲状腺ホルモン（PTH）及び血清カルシウム濃度の十分な観察のもと、1日1回1～8mgの間で適宜用量を調整し、経口投与するが、効果不十分な場合には適宜用量を調整し、1日1回12mgまで経口投与することができる。

<副甲状腺癌における高カルシウム血症、副甲状腺摘出術不能又は術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症における高カルシウム血症>：

通常、成人には、エボカルセトとして1回2mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。患者の血清カルシウム濃度に応じて開始用量として1回2mgを1日2回経口投与することができる。以後は、患者の血清カルシウム濃度により投与量及び投与回数を適宜増減するが、投与量は1回6mgまで、投与回数は1日4回までとする。

【副】添付文書参照

採用薬品のメーカー変更

ガランタミンOD錠 8mg 「武田テバ」 → 「DSEP」
タンニン酸アルブミン 「マルイシ」 → 「ケンエー」



採用区分変更薬品

ヘルベッサールカプセル 100mg 院外専用薬品 →
ジルチアゼム塩酸塩Rカプセル 100mg 「サワイ」 院外専用薬品